

COOP-JOSO News Letter

常総生活協同組合
発行/副理事長 大石
tel:050-5511-3926

2011年度活動テーマ
発酵食品で放射能に打ち克つ健康づくり。人々の協同で被災地復興と大地再生。
発酵と復興

【ものづくり、人づくり、地域づくり】 震災・原発事故汚染から半年
2011年秋の「せいきょう強化月間」

【強化月間テーマ】 復興と発酵

●みんなの利用で復興応援！



津波と原発事故に遭っても、海に流された網を引き揚げて補修をはじめた福島相馬原釜の漁師さんたち。船も2/3を失っても、再起に向けて準備がはじまった！（8/21）

●発酵食品で免疫力アップ！ 放射能に負けない身体作り。

私たちが負けてはいられない！食事をしっかりし、放射能に打ち克つ基礎体力・免疫をつけよう！

【今週の「復興」応援企画】

- (岩手県)「鮮さんま」 北海道沖漁獲→宮古港水揚げ (別チラシ 放射能不検出確認済)
- 宮古「秋鮭ハンバーグ」(P5 No.138 丸友しまか) 宮古の「イカ」3種 (P5 共和水産)
- (茨城県) 涸沼しじみ(P4 No.97 涸沼漁協) めぐみちゃんコシヒカリ新米(15P 水海道特産米)

【今週の「発酵食品」】

- 「三升漬」(P8 北海道・士別農園) ●「黒生てんぺ」(P8 東京都・登喜和食品)
- 「納豆こうじ漬 山椒入り」(P8 山形県・白鷹農産加工研)

○3.11後危機感。脱原発まで死ぬまでやろうと決意し署名運動をはじめ、田中優講演会も。夏休み福島の子供たちを招待。周囲は無感心と逆らいたくないという雰囲気。わかりやすく周囲に伝えることが必要。東海第二に対してもしっかりやらないとここに住めなくなる。福島の人たちに対しても何とかしてあげないと。

○守谷のお母さんたちも疲れてきている。周囲の人も関心がないように装っていても実は情報を欲しがっている。活動を見える化して、かつ活動的には「おおらかな」気持ちで

■次回10/1(土)第2回委員会の課題として

- ①自分のおすすめの本を紹介
どの方が信頼できるか、根拠があるのか、この本を読んでみたらというのをみんなで挙げてみる。
- ②地域のお母さんへのリーフレット作り
毎日食べているものを気にしている方がいっぱいいる。食生活で気を付けることは組合員だけがわかっていればいいという問題ではないので、特に小さいお子さんをお持ちの方に、「こういうことだけは気を付けましょうね、こんな食生活しましょう」というような事をまとめてリーフレットを作りましょう。次回委員会前までに食の留意事項やおすすめの食生活のメモを事務局に集めることになりました。

常総生協

放射能対策、脱原発に向けた活動予定

【汚染実態調査】

生協の放射能測定機の利用を地域公開

- 公園等の空間線量サーベイランス活動から土壌汚染実態調査と除染要請
- 福島の土壌・作物の放射能測定支援を優先
- 組合員の家庭菜園等の放射能測定利用を開始(8/27～毎週土曜日)
- 地域の学校・PTAへサーベイメータ貸し出し。校庭等の土壌放射能濃度測定。
- 地域関係団体への機器貸し出し・利用公開(9月より)
- 地下水汚染監視開始

【放射能から身を守る活動】

被曝予防セミナー、放射能に負けない身体作り講習会

- 10/2(日) 黒部小児科医セミナー
「放射線被曝から子供たちを守るために」
- 地区巡回講座「放射能被曝と食生活」

【脱原発に向けた活動】

脱原発署名(2種類)の集約・提出をお願いします！

- 「脱原発1000万人署名」
(総理大臣・衆参両院議長宛)
- 「東海第二原発再稼働中止・廃炉を求める署名」(茨城県知事・日本原電社長宛)
- 9/11(日) 広瀬隆講演会「脱原発を語る」(土浦市民会館)
- 9/19(月) 明治公園5万人集会へ
さようなら原発1000万人アクション

【今後計画していること】

原発を再稼働させないために

- 脱原発街頭署名行動
- 東海第二原発の視察と現地で活動されてきた方のお話を聞く会(バスツアー)
- 茨城県知事への安全協定不同意要請
- 東海第二原発再稼働差し止め訴訟準備(全国一斉差し止め訴訟に合流)
- 東電本店訪問・申し入れ。

【福島の子どもたちと、農林水産漁業再生支援】

生協の放射能測定機の利用を地域公開

- 福島の赤ちゃんに綿ぶとんを送る活動
6月から組合員による綿くり作業 8/30 水海道川亀製綿に綿持込み子供布団20組依頼、布団柄の選定 9/7 あいコープふくしま母親来協交流予定
- 福島にホールボディーカウンターを送る運動(「未来の福島子ども基金」への募金活動)
- 日本有機農業研究会との共同事業として福島森里海放射能汚染測定と再生支援活動
- 相馬漁港の再生と自立をめざす「NPO相馬はらがま朝市クラブ」支援活動

【石巻 高橋徳治商店】

「応援してくれた常総生協の組合員さん、へドロさらいをしてくれた職員のみなさん！茨城有機農研のみなさん！本当にありがとう！」

11月生産再開をめざして、ここまで来ました！



高橋社長の笑顔が！
渡辺工場長(左)と。
お豆腐揚げの
職人さん(中)



4/16~21 生協職員、茨城有機農研
のみなさんでへドロさらいの応援



家族を失った職員さんとも復帰し、みんなで再開に向けた作業がすすまっています。へドロだらけだった床もピカピカに。(8/29)

8月29日、宮城県石巻の高橋徳治商店を訪問しました。当日は社長以下、全国から駆けつけたボランティア団体の若者たちと、広島が生協職員が高橋徳治商店の社員さんと一緒に清掃作業に取り組んでいました。

4月当時に比べると、文字通り「雲泥の差」。緑色のコンクリートは石けんでピカピカに洗浄され、すぐにも製造再開できそうな清潔感がありました。「危険そうなものが出たら触らない。遺体が出たら警察へ。サイレンが鳴ったら津波の合図だから山へ逃げること」。当時、清掃作業に取り組む前の社長の注意事項の言葉が懐かしくも感じました。

こんな中でも、清掃には徹底して石けん(カリ石けん)を使用していました。「これ以上環境を汚してはだめだね。またへドロはどちらかというと酸性だからアルカリの石けんで汚水も中和させたい狙いもあります」と高橋社長。

津波で破壊された壁も修繕し、クリーンルームを工場内部の一角に建設中。10月初旬には試験製



高橋社長の
次男も
機械の掃除

造を開始し、11月には「お豆腐揚げ」の製造・出荷から再開の予定です。「また借金することになるけど、待っている人がいるから」と高橋社長。

帰り際に、「持続可能な水産業が出来る仕組みづくりを進めたいと思ってるんです。MSC(海のエコラベル)とかではなく、日本固有の制度を作りたいよね。その為の基金を作りたいな。例えば、網の目を大きくすると、それだけ魚減る。減った分は基金から少し補填してあげるとか」と、あくまでも前を見据えた社長がいました。

また、生協の職員に向けては、「作った人の魂を届ける仕事」を目指してください。そのためには、現場に行くことや、作っている人の考えを聞くこと、勉強することが重要です」と、いつもの高橋社長節も健在でした。11月、みんなで待ち望んだ「おとうふ揚げ」、楽しみに待っていてください。

(商品担当理事 柿崎)

総代会特別決議「原発に頼らない安心の社会づくりに向けて」

「脱原発とくらし見直し委員会」発足

【理事長あいさつ】

放射能の被曝を受けながらも、組合員のみなさんがたくさんの発信と行動をはじめてくれる。

他方、原発を推進する側は「大丈夫・大丈夫講演会」を各地で開催したり、「計画停電」に続いて「原発止めたから電気料金値上げだ」と。

事実を知りながら、みんなで脱原発の道を考えて行動をしてできるかぎりの力を出してゆきましょう。

【委員より】

○微力でもできることがあればという思いで。生協の集まりで有益な情報を得たい。

○子連れで何もできないが、みなさんと会いながら

○新聞テレビ、マスコミが信用できないので、本当のことを知ってゆきたい。

○親の世代に「どうして戦争に反対しなかったの？」と生意気に言っていたのに、今原発事故で孫たちに顔向けできない。生きているうちは活動しなければと思い、病気持ちですが、やれることはやっていきたい。いろんな学者がいろんな事を言っているが、どの方が信用できるのか確かめてゆきたい。

○世界中が核実験を競い第五福竜丸の事件が起きた時代を知っている世代。学校でも親からも放射能の危険を教えられて育ったのに、原発の説明を受けて、こんなにも安全なものと思込んでしまっていた。オール電化にしてしまい複雑な気持ち。本当は何なのかわかりたい。

○日々の生活の中で、今までまったく原発が頭になかった。消化不良。どれが正しいかわからなくなっている。何が正しいかの検証をしてゆきたい。

○チェルノブイリの時に他人事だった。一から勉強する。家庭菜園も0.3μシーベルト、雨樋のところは2.0。そこから逃げだしてはいけないと思い、なんとかしてみなさんといっしょに対策をしてゆきたい。

○茨城に引っ越してきてまだ3年なのに放射能。守谷で畑仲間。安全なものをと自分で耕作してきたのにこの放射能。皆、耕作意欲を無くした。孫も3人目が9月に生まれるがやはり心配。雨樋の浸透枡で10μシーベルト。自分たちはともかく希望のある子供たちには心配させたくない。畑仲間にも広げてゆきたい。東海原発からも70km。



【委員会の体制】理事会が責任を持って推進する
委員長:村井理事長 副委員長:加藤理事
事務局:大石副理事長

【定例会】毎月1日 10-12時 行動は随時

【委員】組合員37名 役員10名

※随時委員参加受付

【活動の柱】

- ①放射能から地域の子ども達・家族を守る活動
- ②脱原発に向けた市民意志表示と地域連携
- ③くらしの見直し活動
- ④放射能に負けない食と食生活
- ⑤福島再生支援

○高校の時にチャイナシンドロームの映画。そしてチェルノブイリ。今の日本の政府は情報操作。東電への糾弾も声が小さくなってしまっている。どうせ浴びたのなら、とにかく原発に反対しながらも発酵食品などの勉強もしてゆきたい。

○タクシーの運転手さんまで原発反対を言うようになった。以前は原発反対という過激派のように思われた。やることはやっていきたい。

○娘が原発の講演会に。話を聞いてこれはたいへんな事と。4歳の孫のためにも知らん顔はできない。

○本能的に戦争と放射能は反対の本能。身近な人たちと情報交換して確かめたい。

○やっぱり気になって、考えなければいけないと思って参加しました。

○事故後、体調崩し。政府はいいこと言っていて騙しているのでは。何でもみんな大丈夫だと言うのだろうか。事実を知りたい。

○長崎で育って、8/9は登校日で平和教育・放射能教育を受けて育った。こちらに来て平和教育がない。多くの犠牲があつて今がある。

○3.11の報道の変化に疑問を持って、友人に話して。周りは安全だと信じている。チェルノブイリの子供たちの現在。今やらなければ・・・

○自分にとってもこの委員会が初めの一步。

○今まで原発の事何も知らなかった。

○生産者として落ち込んでいた。原発を止めることだったら何でもやる。